

清里町図書館

図書館だより



清里町図書館
ホームページ
QRコード



NO.295

清里町羽衣町35

TEL 25-2582

◆図書館に新しく入った本の紹介◆

小説

雷神

道尾 秀介 著



ある一本の電話が引き金となり、秋郷へ赴くことになった幸人。しかし、その後は新たな悲劇の幕開けに過ぎなかつた。村の祭が行われたあの日、相筋の激しい父が遺した真実の裏面、そして再び殺意の渦中へ身を置く人たちは、待ち受ける未来とは、一体...

雨夜の星たち 寺地 はるな 著

二葉雨音は他人に感情移入ができない二十六年。同僚星崎くんの良機に、仕事を辞める。他人に興味が持たない長所を見込まれ三葉は、見舞いの代行業にスカウトされ、お勤手稼のまいお年寄りの病院送迎や雑用をする。しごとをはいはじめる。

境内ではお静かに(2) (3) 天祿 涼 著

今月の本棚

人生のきろく

人は誰も自分の歴史を持っています。今月の本棚では伝記を取り上げます。教科書に載っているような偉人のものから、みんなに愛される有名人のものまで、様々な人生に思いを馳せませんか！

- ・小林カツ代伝・私が死んでもしびに残る 中原 一歩 著
- ・渋沢栄一伝・道理に欠けず、正義に外れず 井上 潤 著
- ・知里幸恵物語・アイヌの物語を命がけて伝えた人 金治 直美 著 (ほか...)

展示期間 8月3日～8月31日

よみきかせ会

図書館職員によるよみきかせ会を行います。申し込みは必要ありません

8月19日(木)午後3:30～(約30分間)
プラネット'97 音楽室
3歳から小学校低学年が対象です

古本市についてのおしらせ

毎年9月に開催していた古本市は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大防止のため、中止いたします。

うらんぼんの夜 川瀬 七緒 著

片田舎での暮らしを厭う高校生の奈緒は、東京から越して来た亜矢子と親しくなる。しかし、それを境に村の空気は一変し、亜矢子の口数も少なくなると疑念を抱く奈緒は、密かに彼女の自宅に忍び込もうとするが...

琥珀の夏 辻村 深月 著

かつてカルトと批判されたヘミライの学校への敷地から発見された子と、その白骨死体。弁護士の子は、遺体か胸の胎動を感じた。ヘミライの学校への夏、親友と離れてからは、生活を送るために法科の合宿で、共同生活を送る子と、友達と付き合い、あの子が死ぬまで、あの子の罪が...

東京のぼる坂くたばる坂 さなえ 著

アラフォーで母と二人暮らしの奈子は、幼い頃家を東京中の坂を転居して回った父の足跡を辿り始める。坂好き必見のお散歩小説！

この場所であなただけの名前を呼んだ 加藤 千恵 著

赤々や人が健康に育っていくことも、無事に生まれてくること、すべてが当たり前で、できないうちから、秒ででも無駄にされた人生は、一瞬たり前です。誰かのために、NLCUという場所、その身を置いてきたこと、気がつかされたり、七人の物語。

また人を殺してしませ 小林 由香 著

8月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

○ = 休館日

7月によく読まれた本

- ・鬼滅の刃(2) 吾峠 呼世晴
- ・沈黙の終わり(下) 堂場 瞬一
- ・命とられるわけじゃない 村山 由佳
- ・魂手形 宮部 みゆえ
- ・ドキュメント 湊 かなづ
- ・道連れ彦輔居直り道中 逢坂 剛
- ・白鯨 夢枕 十郎
- ・グッバイ・イエロー・グリック 小路 幸子
- ・片をつける 吾峠 呼世晴
- ・沈黙の終わり(上) 堂場 瞬一
- ・おじさんはどう生きるか 松任谷 正隆
- ・劇場版 鬼滅の刃 無限列車編 吾峠 呼世晴
- ・ノバライズ

☆開館日 火～土曜日 午前10時～午後6時 日曜日・祝日 午前10時～午後5時 ☆休館日 月曜日(祝日の場合は開館)



息子が部屋に引きこもって七年、このままでは我が子を手につけて、自分も死ぬしかない。従順な妻と優秀な娘にめぐまれ、完璧な人生を送っているように見える大澤正樹には秘密がある。有名中学に合格した息子を指していたはずの長男の翔木が七年間も部屋に引きこもったままなの。夜中に家中を徘徊する黒い影。次は、怒ガラスでなく自分壊され。読の絶望と再生の物語。

赤の呪縛 堂場 瞬一 著

銀座の高級クラブで放火事件が發生。オナーと容疑者の女が命を失った。警視庁捜査一課の刑事、渡上亮司が捜査を進めると、背後に政治家である父の存在が浮かび上がる。かつて父を憎み、故郷を捨てた刑事は、封印した過去と向き合うことに。破滅するのは父か、己か？

檸檬先生 珠川 二おり 著

私立小中一貫校に通う小学三年生の私は、音や数字に色が見えたりする。共感覚を持ち、クラスメイトから蔑まれていた。ある日、唯一心安らげる場所である音楽室で、中学三年生の少女と出会う。檸檬色に映る彼女もまた孤独な共感覚者であった。

忘れられたその場所で、倉敷 茂 著

人ならざるものを見てしまう高校生。美和は、雪の道に迷い、見知らぬ街に迷い込む。その一角に、割られた窓ガラス越しに、男は死体たたりを見ていた。男は死体たたり、見た。

黒牢城 米澤 穂信 著

本能寺の変より四年前、天正六年の冬、織田信長に叛旗を翻して有岡城に立て籠った荒木村重は、城内で起きる難事件に翻弄される。動揺する人心を落ち着かせるため、村重は土牢の囚人にして織田方の軍師、黒田官兵衛に謎を解くよう求めた。事件の裏には何が潜むのか。

対になる人 花村 萬月 著

冬の札幌で、小説家・菱沼が出席したのは、心に五〇の人格を宿す女だった。DV被害にあう女に手を差し伸べた男は、信じられぬほど壮絶な彼女の過去を知ることになる。

白医 下村 敦史 著

先生の手で、終わらせてくれないか。ホスセスで起きた三件の不審死。沈黙を貫く医師が抱える真相とは？ 救うべきは、患者か、命か。

アンソニー・シャル、テイスタン、スミ 著

コロナ禍の世界を逃れ、心中の旅に出る若い男女を描く表題作や、臨界状態の魂が暴発するストロングゼロなど、振り返り血を浴びる作品集。

斬鬼狩り 鳥羽 亮 著

終活の準備はお済みですか？ 桂 望実 著

竜とそばかすの姫 細田 守 著

キャラクター 長崎 尚志 著

野球が好きすぎて 東川 篤哉 著

(エッセイ) 養老先生のさかさま人間学 養老 孟司 著

「考えないと案だけ、案をする」とあつと損しますよ。『バカの壁』の著者であり解剖学者の養老先生が自分の頭で考えるための八十五個の視点を伝授。

ためぎが見ていた 大貫 亜美 著

PUFFY、デビニー二十五周年！ 手芸に漫画にウサギに釣りにKPOPアイドルをそして最愛の娘！ 大好きなものを詰め込んだエッセイ。

幕張少年マサイ族 椎名 誠 著

(ルポルタージュ) 東京デイズトピア日記 桜庭 一樹 著

(外国文学) 僕が死んだあの森 ピエール・ルメートル 著

六歳の子を殺してしまつた少年。遺体を森に埋めて罪を逃れたが、やがて森の闇発計画が、文学界の鬼才が放つ傑作犯罪サスペンス。

シブヤで目覚めて アンナ・ツイマ 著

(社会) 近親殺人 石井 光太 著

大切なはずの身内を手にかける。その時、家族に何が起つていったのか。七つの事件が問をかける。けつして他人事ではない、現実。

つながり続けること、まな 湯浅 誠 著

マンガがわかる LG B T Q + パレットーク 著

「知らなかつた」とを言い訳にして、誰かを傷つける時代を終わらせよう。イマサラ聞けない LG B T Q + のギモンに答える入門書。

(法律) おっさんず六法 松沢 直樹 著

ストレス社会を生き抜く法律の本。被害者にも加害者にもなりうる。働きた世代が遭いやすい事例をもとにトラブルを避ける方法と、石が

一トラブルに発展した際の対処方法を豊富に紹介。

(教育) やりすぎ教育 武田 信子 著

日本の子どもの精神的幸福度は、参加三十八ヶ国中三十七位と、ワースト二位。『あなたのためを思つては逆効果？』よかれと思つて話してみすぎて、教育熱心と教育虐待のボーダーラインはどこにある？

(心理学) 星ひとみの「天星術」 星 ひとみ 著

しいたけの小さな開運BOOK 星 ひとみ 著

「忌」怖い話大祥忌 加藤 一 著

実録怪談最恐事故物件 北野 誠 ほか 著

(料理) ハツ江おはあぢやんの おうち和食BOOK レシピ 高木 ハツ江 著

やわらかとろけるいとしの地リ！ 本間 節子 著

(医学・医療) 耳が遠くなった？と思ったら読む本 市村 忠一 著

(芸術) スタジオジブリ全作品集 講談社 編

『風の谷のナウシカ』から、最新作『アトミヤと魔女』まで、スタジオジブリのアニメーション二十六作品をこの一冊で、まるごとすべて紹介しています。

明治の細密工芸 山下 裕二 監修

仏像 山本 勉 著

若冲百図 小林 忠 監修

異様な美しさで増幅する細密表現と純真さとユーモアに満ちた自由な線、奇想の画家の創造力に迫る傑作百撰。

松井冬子 八柳 サエ 監修

丁寧な暮らしをする 飯鬼 2 塵芥居士 著

(地誌・紀行) 奇界遺産 3 佐藤 健寿 編著

シリウス七年ぶりの続編。今作では北朝鮮のマスゲーム、アメリカのバニンング、マン、北極の少数民族、ネイション、日本の軍艦島をはじめ幅広いジャンルの世界各地の奇妙な文化を収録。

近世蝦夷地の地域情報 米家 志乃布 著

が当地絶景北海道 昭文社

決定版北海道道の駅ガイド 21、22 花岡 俊吾 著